



能登やさしいこめづくり情報

令和7年6月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
JA 能登わかば

早生穂肥編

穂肥の適期・適量施用で、収量・品質を確保!!

1 生育概況と当面の管理

- 6月9日の生育調査の結果、前年と比較し、草丈はコシヒカリでやや長く、ゆめみづほでやや長く、ひやくまん穀はやや短いです。茎数はコシヒカリではやや多く、ゆめみづほ、ひやくまん穀では多いです
- 1か月予報(6/5 発表)では、今後、前年同様、暑くなる予報となっておりますので、生育が早まる可能性があります。中干しは、早生品種では6月25日頃まで、コシヒカリでは7月5日頃まで、ひやくまん穀では7月15日頃まで継続し、稲体の健全化を図りましょう。
- 今後は、①「中干し終了後の飽水管理」、①「適切な穂肥の施用」、③「3回の仕上げ防除の徹底」に努めて下さい。

【参考】 生育調査結果(6月9日現在)

品 種	草 丈 (cm)			㎡当たり茎数(本/㎡)			株当たり茎数(本/株)			葉 齢 (枚)		
	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%
コ シ ヒ カ リ	29.0cm	108%	98%	248 本	118%	85%	13.9 本	127%	90%	7.5 枚	107%	97%
ゆ め み ゅ ほ	28.3cm	107%	101%	345 本	138%	118%	19.9 本	138%	121%	8.9 枚	107%	107%
ひ ゃ く ま ん 穀	25.8cm	91%	88%	229 本	121%	112%	12.5 本	114%	113%	7.5 枚	99%	104%

1 中干し終了後の水管理 【根の活力維持】

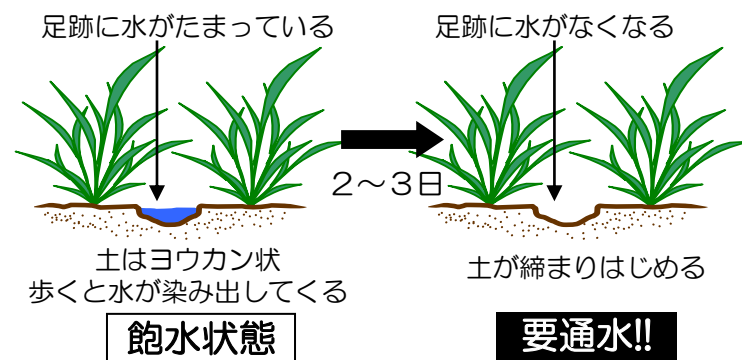
・登熟期間の水稻の活力を維持するためには、根を健全に保つことが重要です。そのためには、適期の中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

飽水管理の徹底

幼穂形成期(早生品種 6月25日、コシヒカリ7月5日、ひやくまん穀7月15日)以降は、新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し、飽水状態(右図)を保ち、根の活力維持を図りましょう。

- 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう(水田内の温度を上げない)。
- 集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。

【飽水管理】とは・・・ほ場表面に水はないが、足を踏み入れると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理のことです。



※ 台風通過後のフェーン等による異常高温にさらされる場合は一時的に湛水し、稲体を守りましょう。現象終了後は速やかに飽水管理に戻して下さい。

2 出穂予測と穂肥時期の目安 【適切な穂肥の施用】

・「ゆめみづほ」の出穂期は平年では、7月18日頃、昨年では、7月16日です。

※出穂予測は、JA 能登わかばホームページ、各アグリセンター店頭、LINEで改めて掲示します。

営農情報をLINEで迅速に!

このQRコードから友達登録。
営農情報が迅速に届きます。



基肥一発肥料体系での追加穂肥

★ 暑さに負けない! 「ゆめみづほ」登熟向上対策!! ★

・基肥一発肥料では、基本的には追肥の必要はありませんが、本年は8月までの気温は平年より高いと予報(5/20 発表)されており、①登熟期の高温による栄養凋落の防止 と ②収量の向上のため、以下を目安に上乗せ追肥に取り組んでみましょう。

品 種 名	追加穂肥の判断	
	判断時期(出穂前日数) 平年参考	判断基準(葉色)
ゆめみづほ	7月3日頃(15日前) (幼穂長 40mm・葉耳間長-10 cm)	葉色板5.0未満 (葉色が濃い場合は施用しない)

追加穂肥の施用		
施用時期(出穂前日数)	肥料名	施用量
7月8日頃(10日前) (葉耳間長±0cm)	BB 秋ゆたか	7～10kg/10a

分施肥体系での穂肥

・1回目穂肥が施用出来なかった場合でも、2回目の時期の穂肥は必ず施用して下さい(稲体の消耗を防ぎ登熟向上を図る)。

<注意> 追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと

品 種 名	肥 料 名	平年の施肥時期(出穂前日数)		施用量	備 考
ゆめみづほ	BB 秋ゆたか	1 回 目	6 月 25 日 頃(23 日前)	15 kg/10a	1回目の施用基準:幼穂長 1mm(上図参照)、 葉色板 4.0
		2 回 目	7月8日頃(10日前)	20 kg/10a	
	BBLP 秋ゆたか	1 回のみ	6月23日頃(25日前)	30～35 kg/10a	2回目の施用時期:葉耳間長±0cm(上図参照) ＜注意＞ ・ 葉色が濃い場合(葉色板 4.0 以上)は時期は遅 らせず穂肥1回目の施用量を3割程度減らして施 用して下さい。 ・ 地力がなくて秋落ちしやすい場合は、BBLP 秋 ゆたかを施用してください。

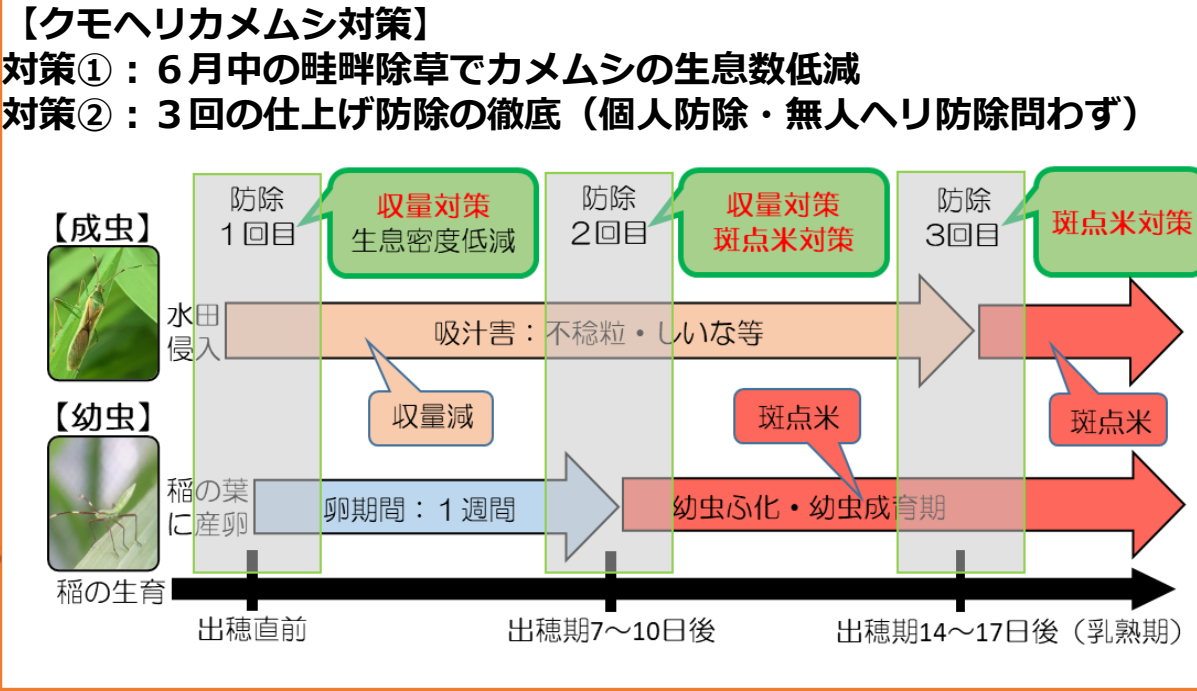
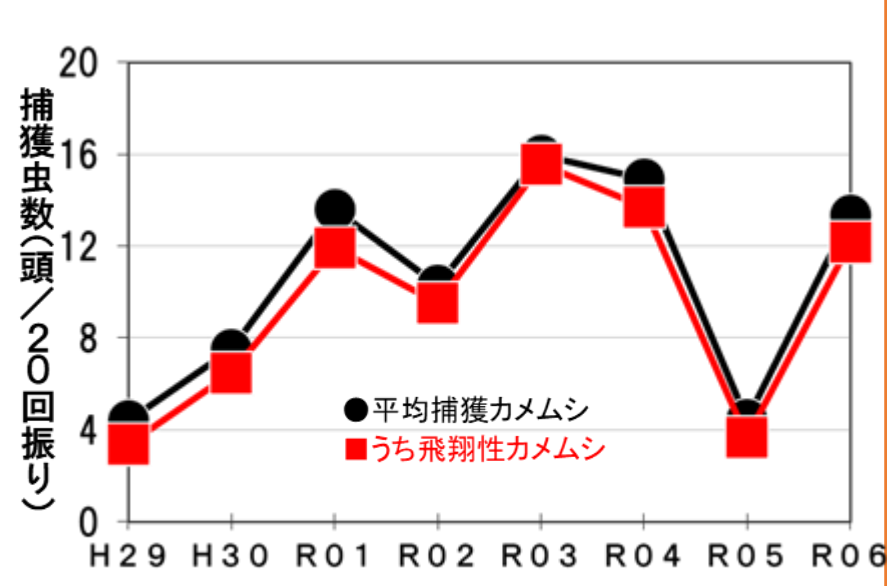
4 斑点米の発生防止対策 【 畦畔除草・3回防除の推進 】

近年、大型で飛翔性のクモヘリカメムシが多発しており、斑点米だけではなく、米粒を不稔にさせて減収させる要因としても考えられています。そのため、**畦畔除草**と**3回の仕上げ防除**を実施し、収量も品質も良いお米に仕上げましょう。

<斑点米カメムシ類>

【飛翔性】

【歩行性】



◆ 除草 ◆

(1) 畦畔除草

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで**畦畔や農道等の一斉仕上げ除草**を実施しましょう。

< 一斉草刈り強化週間は7月3日（木）～7月10日（木） >

◎ 7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基本的には行わないでください。
（※頻繁に除草している場合に限り、継続除草は可能。） やむを得ず、除草する場合は、**基幹防除の直前に行ってください。**
また、熱中症対策を十分に行いましょう。

(2) 本田除草

本田に雑草の取りこぼしがあるとカメムシを呼び込むこととなるので、収穫前日数に注意しながら本田除草剤を施用しましょう。

※ 早生品種の目安： 収穫 30 日前まで(クリンチャー等)→7月17日頃まで 収穫 45 日前まで(アトリ等)→7月2日頃まで

◆ 3回防除 ◆

基幹防除では、**出穂始め**と、**出穂期の7日後（穂揃期）**、**14日後（傾穂期）**の**3回防除が斑点米カメムシの被害防止に重要**となるため、必ず実施しましょう。

【出穂】とは…

止葉から穂の一部が出た状態

【出穂期】とは…

ほ場全体の40～50%が出穂した時期をいいます。

①粉剤体系：粉剤防除では防除効果を高めるため、風の無い時間帯で、散布後3～4時間は降雨がない日に散布してください。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL 【2成分】	4kg	7月14日～17日頃	出穂始め防除
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤 DL 【2成分】	3～4kg	7月25日～7月28日頃	出穂期7～10日後（穂揃期）
3回目	カメムシ類	エクシード粉剤 DL 【1成分】	3kg	8月1日～4日頃	出穂期14～17日後（傾穂期）

化学合成農薬成分の数です。

③液剤体系：液剤防除は散布に労力はかかりますが、安価なため、コストを抑えることができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトレボンゾル 【2成分】 + バリダシン液剤5 【0成分】	650倍・100L 1000倍・100L	7月14日～17日頃	出穂始め防除
2回目	カメムシ類	エクシードフロアブル 【1成分】	2000倍 100L	7月25日～7月28日頃	出穂期7～10日後（穂揃期）
3回目	カメムシ類	エクシードフロアブル 【1成分】	2000倍 100L	8月1日～4日頃	出穂期14～17日後（傾穂期）

～農作業中の熱中症に気を付けましょう～

暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。
こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など、対策を行い、日中の暑さに備えましょう！

